

高尾山山頂から発信！

# のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.59 季刊  
2020年春号

YOUはどうして日本へ？ …それは許されざる国際交流

## 高尾山でも見つかった外来種 -昆虫編-

赤い斑点が名前の由来

特定外来種

アカボシゴマダラ

原産地：中国や朝鮮半島周辺  
見つけた場所：高尾山山頂

ラミーカミキリ

原産地：インドシナ半島、中国、台湾  
見つけた場所：薬王院周辺

国内外来種

オオクワガタ

原産地：日本  
見つけた場所：1号路

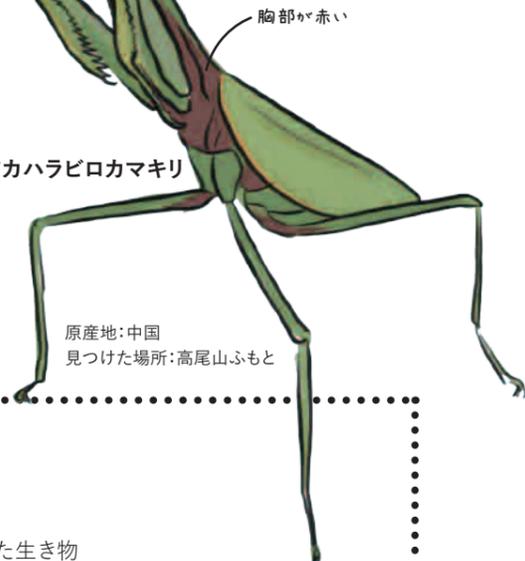
高尾山には約5000種の昆虫が生息しているといわれています。その一方で、本来日本にいないはずの昆虫（外来種）も生息しています。外来種は、高尾山にもともと生息している生き物に対して、新たな天敵となり得ること、すみかや食べ物を奪ってしまうなど、様々な悪影響を及ぼす危険性があります。ここでは、高尾ビジターセンターの解説員がみつけた外来種を中心にいくつか紹介します。



マツヘリカメムシ  
原産地：北米  
見つけた場所：高尾山ふもと



アオマツムシ  
原産地：中国  
見つけた場所：6号路



ムネアカハラビロカマキリ  
原産地：中国  
見つけた場所：高尾山ふもと

### 用語解説

- ・外来種(外来生物)：外国から日本に持ち込まれた生き物
- ・在来種：本来の生息地に生息している生き物
- ・国内外来種：在来種が、本来の生息地を越えて国内の他の地域に持ち込まれた生き物
- ・特定外来種(特定外来生物)：外来種の中で、日本の生態系や農林業、人の生活に悪影響を及ぼす恐れがあるもの
- ・競合：同じような食べ物や生息環境を持つ生き物同士がそれらを奪い合うこと。在来種を圧迫して悪い影響をもたらす

## Twitterでふりかえる 高尾山ニュース!

2018年の4月より、Twitter・Facebookをはじめました！  
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。  
では、1月～3月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

### みんなが注目した高尾山の積雪情報 (2020/1/18)

高尾ビジターセンター【公式】  
@takaovc

正午現在、高尾山山頂は多いところで6cmの積雪があり、まだ降り続けています。明日の朝方は融けた雪が凍結することが予想されます。いらっしゃる場合は、軽アイゼンなどの滑り止めの携行をおすすめします。

午後0:15 · 2020年1月18日 · Twitter Web App

降雪が少なかった今季は、積雪は4回ほどしかありませんでした。山は雪でも麓は雨、という状況が多かったので、積雪・凍結情報をチェックされる方が多かった様子。この日から、おそうじ小僧の雪のかぶり具合が積雪のめやすとして連日投稿されました。

## 解説員 くらむ vol.21

分かち合えるからこそ自然は楽しい

高尾勤務になった当初、山内を歩き回り、先輩から動植物について教わるうちに高尾山の自然の豊かさに驚き、多くの人に「教えたい」と思いました。

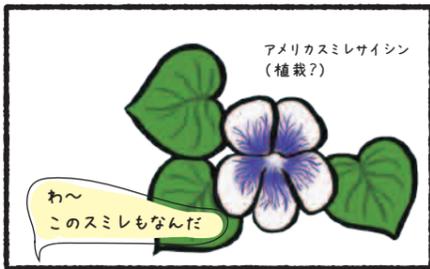
そんな私を変える出来事がありました。初めて見かける青年が、ぺこりと頭を下げて無言で窓口にたたずんでいました。私が「面白いでしょ」と一方的に高尾山の動植物を説明すると彼は無言で聞き入り、終わるとぺこりと頭を下げて立ち去っていきました。そんな一方通行なやり取りが続いたある日、彼がブナのドングリを拾ってきたのです。「私の話で自然に興味を持ってくれた」と嬉しく思い手に取ると、割れた殻の中は空っぽ。なんで中身がないの？と戸惑う私を気にも留めず、彼はいつものように頭を下げて無言で立ち去りました。後日、「高尾山のブナはドングリの中にある発芽に必要な栄養分が育たず、実っても芽生えない。だから今あるブナが無くなる」と高尾山からブナが消えてしまうかもしれない」と知り、大変驚きました。彼がその事を知っていたかは分かりませんが、私は彼から新しい高尾山を知るきっかけを頂きました。

勤務9年目の今でも高尾山で新しい発見をします。それは有識者の話や文献だけでなく、利用者からの一言で気づくこともあります。私はこの時の青年とのやりとりで「教えたい」から「分かち合いたい」に気持ちが変わり、今日も皆さんと高尾山の自然を楽しんでいます。

〈解説員 さとう(た)〉

## たかおさん

「ノネコも外来種」の巻



絵：うめだ 作：やまもと

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。



### 誰も気づかずに入ってきてしまった外来種たち

人や物の移動にともない、意図せず運ばれてきてしまった場合を「非意図的導入」といいます。国内に侵入した経緯は外来種によって様々です。ここでは、輸入品に紛れて入ってきてしまった昆虫を紹介します。



**ラミーカミキリ**  
エサのナンバンカラムシ(植物)についてきた

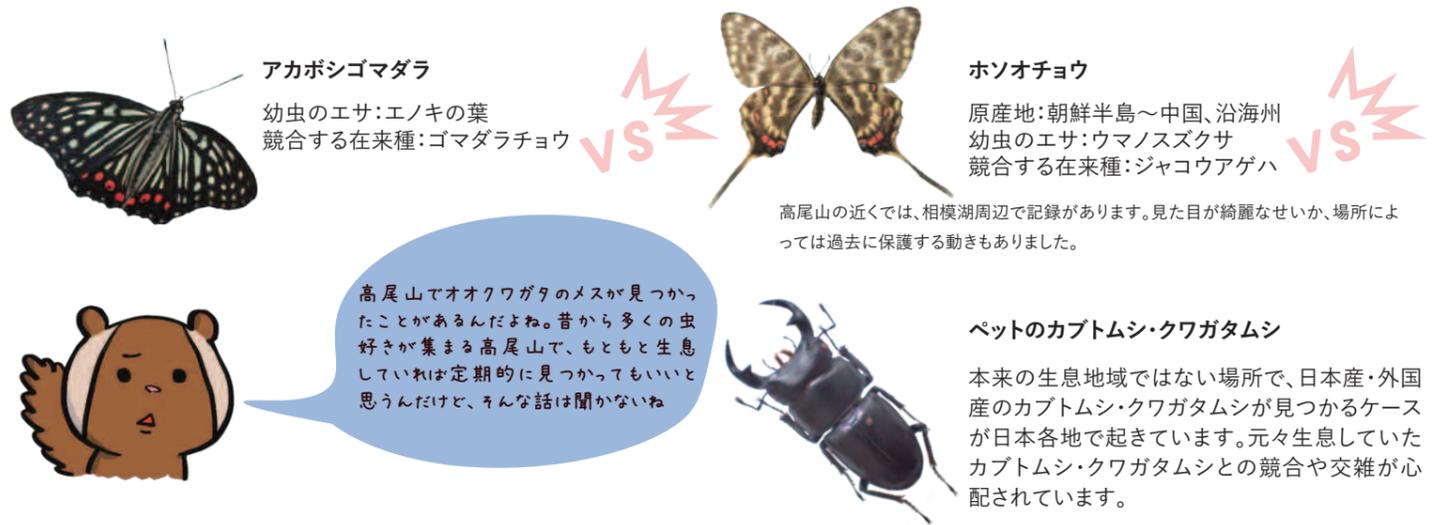
**アオマツムシ**  
苗木などに卵がついていた

**ムネアカハラビロカミキリ**  
竹箒に卵がついていた

このカミキリが入ってくると、在来種のハラビロカミキリが減ってしまうそう。そういえば、最近高尾山でもハラビロカミキリは見えないな

### 誰かが持ち込んできてしまった外来種たち

ペットや家畜、農業における害虫の天敵などの目的で自然に生息している場所から外へ運び出され野外に放された場合を「意図的導入」といいます。ここで紹介するのは、見た目が良く人気の高い昆虫が放されてしまった一例です。エサやすみかをめぐって在来種と競合しています。



**アカボシゴマダラ**  
幼虫のエサ:エノキの葉  
競合する在来種:ゴマダラチョウ

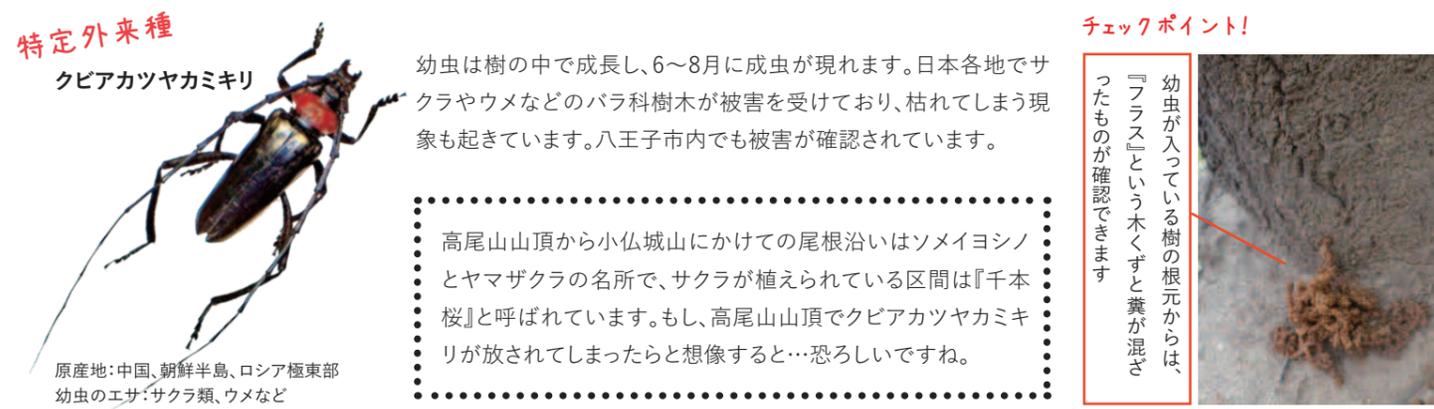
**ホソオチョウ**  
原産地:朝鮮半島~中国、沿海州  
幼虫のエサ:ウマノスズクサ  
競合する在来種:ジャコウアゲハ

**ペットのカブトムシ・クワガタムシ**  
本来の生息地域ではない場所で、日本産・外国産のカブトムシ・クワガタムシが見つかるケースが日本各地で起きています。元々生息していたカブトムシ・クワガタムシとの競合や交雑が心配されています。

高尾山の近くでは、相模湖周辺で記録があります。見た目が綺麗なせいか、場所によっては過去に保護する動きもありました。

高尾山でオオクワガタのメスが見つかったことがあるんだよね。昔から多くの虫好きが集まる高尾山で、もともと生息していれば定期的に見つかってもいいと思うんだけど、そんな話は聞かないね

### 今後高尾山でも注意すべき外来種



**特定外来種**  
**クビアカツヤカミキリ**  
幼虫は樹の中で成長し、6~8月に成虫が現れます。日本各地でサクラやウメなどのバラ科樹木が被害を受けており、枯れてしまう現象も起きています。八王子市内でも被害が確認されています。

**チェックポイント!**  
幼虫が入っている樹の根元からは、『フラス』という木くずと糞が混ざったものが確認できます

高尾山山頂から小仏城山にかけての尾根沿いはソメイヨシノとヤマザクラの名所で、サクラが植えられている区間は『千本桜』と呼ばれています。もし、高尾山山頂でクビアカツヤカミキリが放されてしまったらと想像すると…恐ろしいですね。

原産地:中国、朝鮮半島、ロシア極東部  
幼虫のエサ:サクラ類、ウメなど

**まとめ**  
長い年月をかけてたくさんの生き物が棲み着いた高尾山。その複雑な自然環境下に本来いないはずの生き物が突如投下されることで及ぼされる影響は測り知れません。今回は、私がこれまで高尾山でみてきた外来種の昆虫を紹介しましたが、他にも人知れず在来種を圧迫する外来種がいるかもしれません。意図的にしろ、非意図的にしろ、外来種の侵入は人間活動が原因です。我々が高尾山に生息する在来種にこれ以上悪い影響を与えないためにも、下記のことを外来種に対して気をつける必要があります。

★他所で捕まえた虫や飼っていた虫を放さない  
★生きたまま移動させてはいけな(特定外来種では違法)  
★きれいだからと保護しない  
＜解説員 こばやし＞

## 世界の高尾山ことはじめ

近年、高尾山には海外から多くの方が登山を楽しみにこられます。では、初めて高尾山に外国人登山者が訪れたのはいつなのか?気になって調べてみました。なんと日本が開国してまもない幕末に、すでに外国人登山者の記録がありました。

高尾山については新旧多くの文献に記録が残されています。その中に「1861年、英国領事館付通訳官等数名の外国人が乗馬で高尾山を登山」という記述を発見。1861年というと、1859年に横浜が開港し、外交が始まってから2年目のことです。日本に訪れた海外の人々はどうのように高尾山を知ったのでしょうか?

きっかけに、「横浜周辺外国人遊歩区域規定」があります。横浜に滞在していた外国人は、国内を歩ける範囲が開港場から十里(約40km)と決められていました。高尾山は区域の境界線上にあり、範囲内か範囲外かでひと悶着あった後、登山が許可された経緯があります。その結果、最長距離の遊歩地として注目されたようです。当時日本に滞在していた元英国海兵ホーズが、1868年に遊歩区域の詳細図※をつくりました。観光マップのようなもので、横浜を訪れた外国人がこの図を参考に国内を見て回ったといえます。

また、高尾山近隣の鍾水地域の発展があげられます。開港後、前橋や甲府などから運ばれた生糸が鍾水商人の手によって横浜に運ばれ、養蚕業が栄えました。鍾水には外国人が多く訪れており、英国人写真家ベアトは、「養蚕と生糸の生産工程に興味のある人なら、八王子がその近くの農家を訪問することほど楽しいことはない」と評しています。このような記述から、鍾水人気が高尾山という流れもありそうです。

高尾山に登っていたことが分かる記録として、1866年に登山した英国通訳アーネスト・サトウの手記があります。「八王子を過ぎて西へ数マイルゆくと、高尾山という高さ千六百フィートばかりの山があった。頂上までよい道がついていて、ちょうどそのふもとのあたりに関所があった。私たちは、脚の強い馬にまたがって山を登った。亭々とした杉の木陰で弁当を食べ、再び街道へ出てきたのだが、間違って関所の裏側の街道へ出てしまった。」(山頂に行ってお弁当を食べています!)「おのれの任務を過大視するくせのある関所の番人たちは、門を閉ざして我々の通過を拒んだ。」と続き、関所の融通の利かない対応について記録したもののようです。間違えて出てしまった街道が当時の主要道である甲州街道であるならば…この関所の焦りや頑なな様子も察せる気がします。江戸の防衛として堅固であったという小仏関所での出来事であれば、なおさらかもしれません。

当時の高尾山は高尾信仰の広まりで、江戸から参拝する人や、参拝者をもてなすお茶屋がすでに二軒ありました。江戸から近く、八王子の奥にあり、主要な甲州街道に続く高尾山。このような立地と当時の賑わいが、開国早々、自然と高尾山の名を広めたのかもしれない。

**解説員の**  
**ちおし**  
vol.17

**シロダモの若葉**  
新緑の時期だけに現れる  
金色のベルベット

金色の絹毛に覆われた若葉

ウサギの耳のように  
枝先に垂れ下がる

春に展開する若葉は、艶のある絹毛に覆われ、なんともいえず極上の触り心地!この絹毛は後にほとんどがとれ、少しずつ常緑樹らしい硬い葉へと変化します。金色に輝くふわふわの葉を見つけたら、ぜひ触ってみてください。

観察時期:4月~5月  
見られる場所:1,3,5号路、  
稲荷山コースなど

＜解説員 ういん＞